

PROFILE

いしたに けい
石谷 佳コーチ

近畿大学附属福岡高校で県大会3位、国体選抜準優勝。鹿屋体育大学では九州リーグ4連覇、最優秀選手賞を受賞。インカレ4位、国体選手として活躍。社会人クラブでは全国・九州選手権で各2回優勝を経験。

快進撃の裏側に迫る
石谷佳コーチが語る軌跡



敗戦から学び、勝利への道を切り開く

「九州大会を振り返る中で、重要な一戦は決勝ではなく準決勝の江北戦だった」

そう語るのは、方城中学校男子バスケットボール部の石谷佳コーチ。九州大会で最大の山場と捉えていたのは、準決勝の江北戦でした。江北中（佐賀県）には練習試合やカップ戦で敗れており、6月初めの対戦でも約20点差をつけられたといえます。石谷コーチが力を注いだのは、徹底した試合映像の分析。過去の対戦を繰り返し見直し、相手の特徴や戦い方を研究して、対策を重ねました。準決勝での対戦となったことも働き、決勝であれば疲労が重なり、さらに厳しい戦いになったかもしれないと振り返ります。敗戦を学びに変え、準備を尽くして挑んだ一戦。その大きな勝利が、悲願の九州制覇への道を開いたのです。

日々の当たり前の質をさらに上げることが必要

「現状維持は衰退」

徹底した準備を重ね、つかみ取った九州制覇。しかし、その強さは一朝一夕に築かれたものではありません。特別なことをしていただけではなく、思うような結果が出ない時期も、当たり前のことを当たり前以上に徹底してきました。「現状維持は衰退」。石谷コーチが大切にしている言葉です。日々の取り組みの質を高め、ひたむきに地道な努力を積み重ね続けてきたことが今回ようやく実を結び、全国ベスト8という快挙につながったのです。



涙の先に見えた成長、全国の舞台で得た大切な「宝物」

初の全国大会でベスト8という快挙を成し遂げた選手たち。しかし、その道のりは勝利の喜びだけではありませんでした。全国大会の予選トーナメント2回戦。郡山三中学校との試合後には、悔し涙を流す選手たちの姿がありました。それでも自ら集まり、課題や改善点を話し合う姿に、石谷コーチは確かな成長を感じたといいます。

3年生が全国で戦った姿は後輩への一番の「教科書」

全国で戦った3年生。その背中には、後輩たちにとって何よりの教科書となりました。石谷コーチは「恩返しは、言葉ではなく結果で」と、後輩たちに思いを託します。そして3年生には、全国ベスト4に届かなかった悔しさも財産に変え、高校という新たな舞台で自分と向き合い、成長を続けてほしいと願っています。

初の全国大会でベスト8

勝利を重ねるたびに、自信を深めていった選手たち。しかし、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。県大会で味わった悔しさを変え、九州の頂点、そして全国の舞台へ。その快進撃の裏には日々の努力と仲間との絆、勝利をつかむための確かな理由がありました。方城中学校男子バスケットボール部の躍進の軌跡と、その強さの秘密に迫ります。



積み重ねた努力が大きな飛躍へ

夏の地区大会を制した方城中。県大会では準優勝を果たし、初の九州大会へ進みました。九州大会では、県大会で敗れた菊陵中学校（北九州市）と決勝で再戦。雪辱を果たし、九州の頂点に立ちました。さらに、初出場の全国大会でも堂々のベスト8に進出。町内の中学校から全国の舞台へ。選手たちの挑戦が、新たな歴史を刻みました。



大会結果		
大会名	対戦相手	スコア
県大会	準決勝 VS 河東	72-50
〃	決勝 VS 菊陵	37-48
九州大会	準決勝 VS 江北	45-41
〃	決勝 VS 菊陵	40-37
全国大会	予選 L VS 埼玉栄	57-41
〃	予選 L VS 郡山三中	46-59
〃	決勝 T VS 東月寒	59-53
〃	決勝 T VS 成立学園	42-64

